

「社会運動情報資源データベース」の拡充について

データベース作成委員会

データベース作成委員会（委員長大日方純夫）では、二〇一四年度・二〇一五年度に日本学術振興会科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の助成を受け、「社会運動情報資源データベース」（以下「社会運動DB」）の作成と公開のための作業を行ってきた。また、二〇一六年度にも、引きつづき同科研費の助成を受けることとなり、同DBの拡充を進めている。

なお、社会運動DBの概要については、データベース作成委員会「社会運動情報資源データベース」の一部公開について（『早稲田大学史記要』第四七巻）において詳述されているので、本稿では、現在までの公開状況と作業進捗状況について報告する。

一 データベースの登録・公開状況

社会運動DBは、二〇一〇年度の科研費助成によって作成・公開された「保守と革新の近現代史データベース」（以下「保革DB」）の成果を継承・発展させ、早稲田大学が所蔵する社会運動関係資料を公開すべく構築されたものである。データベースは「早稲田大学文化資源情報ポータル」を利用して公開し、ユーザー・インターフェース等は保革DBのものをそのまま活かしている。すなわち、公開されているデータベースのタイトル標記は従来通り保革DBのままであるが、そこに含まれる目録データ・画像データは、二〇一四年度以降、社会運動DBの計画によって逐次増補されているのである。

このように、保革DBと社会運動DBは内容的にも形式的にも連続性を有している。そこで、二〇一〇年度の保革DB、ならびに二〇一四年度・二〇一五年度の社会運動DBによってデータベース化を図り、現在までに公開に至った資料群・資料件数を示せば、以下の通りである。

保革DB 二〇一〇年度データベース化資料群・件数

① 堤康次郎関係資料

七、五六四件

② 日本社会党関係資料

八七〇件

合計

八、四三四件

社会運動DB 二〇一四年度データベース化資料群・件数

- ①安部磯雄文庫 五三八件
- ②風見章関係文書(二〇〇五年度寄贈分) 一九二件
- ③日本社会党関係資料 三、二六九件
- ④大山郁夫関係資料(大山家寄贈分) 一、六六二件

合計 五、六六一件

社会運動DB 二〇一五年度データベース化資料群・件数

- ①浮田和民文庫 一、九一六件
- ②日本社会党関係資料 三、四二七件

合計 五、三四三件

したがって、保革DBに含まれる現時点でのデータ件数は、二〇一〇年度保革DBの八、四三四件、二〇一四年度社会運動DBの五、六六一件、二〇一五年度社会運動DBの五、三四三件をあわせて、合計一九、四三八件となり、二万件近い情報量を備えた一大歴史資料データベースに成長している。

二 データベースの拡充と今後の計画

冒頭でも述べた通り、データベース作成委員会は二〇一六年度も科研費の助成を受け、社会運動DBの拡充を進めている。データベース化の対象となっているのは、次の二つの資料群である。

社会運動DB 二〇一六年度データベース化資料群・件数(予定)

①堤康次郎関係資料

二、四六六件

②日本社会党関係資料

一、五〇〇件

合計 三、九六六件

このうち、②「日本社会党関係資料」のデータベース化は、二〇一〇年度保革DB、二〇一四年度・二〇一五年度社会運動DB以来の継続事業であり、今後も同DB計画の中軸をなすものと位置づけられている。

また、①「堤康次郎関係資料」のデータベース化については、昨年度の報告においても課題とされていたように、二〇一〇年度保革DB以来、中断状態となっていた。本年度の再着手によって、同資料群のデータベース化完遂に向け、新たな一歩を踏み出すことになった。

最後に、今後、予定されている事項について一言しておきたい。社会運動DBの公開は、「早稲田大学文化資源情報ポータル」を利用して行われているが、現在、新たな収蔵品公開システムの構築、公開にむけた準備が進められて

いる。新システムでは、現行のポータルに比し、検索機能や閲覧機能が大きく向上する見込みであり、社会運動DBについても、新システムへの将来的な移行を予定している。もともと、移行に際しては、従来の利用者に不都合が生じないよう、万全の準備が求められるため、移行の時期と方法について、今後も協議を重ねてゆきたい。また、データベース拡充については、データベース事業に係る科研費が単年度毎の申請となるため、次年度以降の計画を明言することは難しいが、堤康次郎関係資料・日本社会党関係資料のデータベース化完遂を目指しつつ、新たにデータベース化の対象とすべき資料群について、選定と検討を進めている。